

## カルロス・アルマーダ大使メッセージ トヨタのメキシコ新工場建設計画発表

2015年4月16日

4月15日にエンリケ・ペニャ・ニエト大統領同席の下で催された記者会見での「トヨタの対メキシコ投資計画発表」に対し、メキシコ政府ならびに同国民の代表として、心から歓迎の意を表します。同計画は、グアナファト州に乗用車の組み立て工場を建設（新設）し、約10億ドルの投資によって年間約20万台の生産体制構築をめざします。この知らせは、我が国を歓喜で満たす朗報です。なぜならば、国際ビジネスを展開する企業家各位、とりわけ日本の企業家各位がメキシコに信頼を寄せている事実の明白な証明となるからです。

このトヨタの投資こそは、2005年に発効したメキシコ日本経済連携協定（墨日EPA）の10周年を祝うに最適の事例です。同協定は、両国経済の各々が有するメリットの活用を可能にしています。さらに多くの要素があいまって、メキシコは、日本の自動車関連メーカーにとって格別魅力的な国となっています。世界最大市場米国に隣接するロケーション、各種FTAが構成する世界規模のネットワークが保証する広大な市場アクセス、こうした要素がメキシコの変身、完璧な生産拠点への変身をもたらしています。

他社の事例では、日産がアグアスカリエンテス州に州内二つ目（メキシコ国内三つ目）となる最新工場を建設しましたし、加えて、ダイムラーベンツとの共同生産のために合弁会社を設立し、新工場の建設をめざしています。他方、本田はセラヤに新工場を、マツダはメキシコ国内初の工場をサラマンカに建設しました。

結びにあたり、今回の発表に覚える満足感を再度表明するとともに、メキシコへ転勤転居される日本人社員とそのご家族を、我々メキシコ人は両手を広げ、おもてなしの心で大歓迎します。トヨタの新工場建設が、メキシコの地位、世界に冠たる自動車生産拠点としての地位を確立するでしょう。二国間の経済関係や人材交流の強化にも貢献するでしょう。歳月の中で育まれたシナジーの一部となり、豊かな未来を築くでしょう。